

第三者評価結果

A-1 利用者の尊重と権利擁護

A-1-(1) 自己決定の尊重

第三者評価結果

【A1】 A-1-(1)-① 利用者の自己決定を尊重した個別支援と取組を行っている

a

<コメント>

・指差してどちらかを選ぶことができるのは21人の利用登録者の内2～3人に過ぎないため、はい・いいえで選択できるように声を掛けたり、実物を見てもらいどちらを選ぶか表情で判断している。自己決定を尊重した個別支援が難しい場合は、家族の協力も得て好きな事・好きな物を探し、個別支援計画に記載して、担当者間で共有している。

・毎日の日課での挨拶、エプロン配りなどの役割は、表情を見ながらその日の朝依頼している。活動支援に拒否があり、家族からの情報で体調の問題と推測される場合、静養してもらったりプログラムを変えている。

A-1-(2) 権利侵害の防止等

【A2】 A-1-(2)-① 利用者の権利侵害の防止等に関する取組が徹底されている

a

<コメント>

・心身の状況により身体を保護することが必要な場合は、利用契約書別紙「身体拘束に関する説明・同意書」を利用開始時及び各年度開始時に家族に説明し、同意を得ている。同意書に基づいて、日々担当者間で不要な拘束をしていないか確認し、体温表フローシートにチェックしている。拘束の方法が変わった場合は、職員ミーティングで話し合っている。

・利用者の写真や名前を広報誌や施設内の掲示コーナーに掲載することについては、利用開始時に家族に説明し、同意を得ている。

・外部講師による虐待の防止研修を、全職員を対象に年1回行っている。

A-2 生活支援

A-2-(1) 支援の基本

【A3】 A-2-(1)-① 利用者の自律・自立生活のための支援を行っている

a

<コメント>

・利用開始時に家族から利用者に関する心身・生活情報を網羅した情報用紙を提出してもらい、概ね1か月の慣らし利用期間後多職種で「本人を知るための地図」を検討し、ニーズ整理表で、課題毎に本人の希望、現状、ストレングス、支援の可能性、具体的ニーズを整理している。

・自らできることは個別支援計画、看護・生活支援計画に明記し、身体機能を維持できるように支援している。例えばでき利用者にはエプロンを自分で外してもらっている。車イスを駆動できる4人の利用者には自分で駆動してもらっている。内1人には、促しの支援をしている。

【A4】 A-2-(1)-② 利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション手段の確保と必要な支援を行っている

a

<コメント>

・情報用紙では、「コミュニケーション」以外に「はい・いいえの表現」「要求の方法」「好きなこと」「気分のむら」「嬉しい時・楽しい時の様子」を家族から情報収集している。利用開始後も支援の中で、利用者が表情、身振り、体の様子で発信することを汲み取っている。

・お迎えの際に家族から情報収集した上で利用者に話しかけることで訴えやすくなり、休み明けで疲れていたり寝不足などの時は特に配慮して声を掛け、休息を早めにとるようにしている。体力がないと予測できる利用者の場合、予め個別支援計画に明記して担当者間で共有している。

		第三者評価結果
【A5】	A-2-(1)-③ 利用者の意思を尊重する支援としての相談等を適切に行っている	a

<コメント>

- ・利用者の意思を尊重できるように、家族と連絡票や送迎時に会話で情報交換している。
- ・個別支援計画改定にあたっての面談には必ず家族と利用者で出席してもらい、計画に関する家族との会話に参加する利用者の表情、身振り、体の様子を読み取り、個別支援計画に反映し、支援につなげられるようにしている。分かる利用者には、改定した個別支援計画を説明している。

【A6】	A-2-(1)-④ 個別支援計画にもとづく日中活動と利用支援等を行っている	a
------	---------------------------------------	---

<コメント>

- ・火水曜日の午前・午後、月木金曜日の午後にプログラムを組み、多彩な日中活動、レクリエーションを実施している。季節や行事に合わせた制作、オセロ、ハンカチ取り、的当て、宝探しなどのゲーム、スヌーズレン、アロママッサージ、音楽療法、足浴、紙芝居、季節の行事、リハビリ部と合同のリハレク、グループ活動、ボランティアによる音楽演奏、バルーンアート、人形劇、制作活動、絵本の読み聞かせなどを行っている。
- ・月木金の午前は入浴支援を行うが、入浴をしない利用者にはDVD視聴、アロマセラピー、ヒーリング音楽鑑賞を行っている。

【A7】	A-2-(1)-⑤ 利用者の障害の状況に応じた適切な支援を行っている	a
------	------------------------------------	---

<コメント>

- ・心身機能、好きな物、関心を考慮して、毎年3つの活動グループを編成している。身体障害の程度が軽度なグループでは、紙漉き・葉書作り、玄関ロビーの季節ごとの飾りつけなどを行い、食べ物に関心のあるグループでは、野菜を育て、季節の食べ物を外食や買って来て食べている。他の1グループでは、音楽を聞いたり、足浴、グループミーティングなどを行っている。
- ・医療ケアの頻度が多い利用者の為のお楽しみ会、胃瘻を造設した利用者の誕生会や外食での味覚体験、身体状況に応じた吸引歯ブラシの使用や伏臥位での臥床などの支援をしている。

A-2-(2) 日常的生活支援

【A8】	A-2-(2)-① 個別支援計画にもとづく日常的生活支援を行っている	a
------	------------------------------------	---

<コメント>

- ・食事は、医師・栄養士・リハビリ担当者と連携し、体重と摂取熱量の評価、咀嚼・嚥下機能の評価を行い、普通食・ムース食・ペースト食・経管栄養食の形態で、適温で提供している。病状による特別食、偏食による代替食、行事に困らだデザートを提供している。
- ・利用者別食事介助カードに従って摂食介助、口腔ケアを行っている。
- ・排泄支援は、障害に応じてトイレでの介助、尿器使用の介助、おむつ交換を行っている。
- ・入浴支援は、週の利用日数により週1回または2回、温泉入浴剤を使用し、童謡・演歌などの音楽で環境作りをして行っている。

A-2-(3) 生活環境

【A9】	A-2-(3)-① 利用者の快適性と安心・安全に配慮した生活環境が確保されている	a
------	------------------------------------------	---

<コメント>

- ・室温や乾燥に留意し、必要に応じて冷暖房の調節、扇風機・加湿器・空気清浄機の使用、換気を行っている。利用者の身体状況によって適温が違うので、衣類や肩・膝掛けなどで個々の利用者が快適に過ごせるように調整している。
- ・個々の利用者の転落の危険性や自傷への心配を考慮して、ベッドまたはセラピーマットに臥床している。ベッド柵に手や足をぶつける危険がある場合、個々の利用者に合わせてデスクマットなどの保護剤を使用している。
- ・玄関ロビーや廊下の壁面は、さわれる木製立体貼り絵で森の中を表現したデザインになっている。

A-2-(4) 機能訓練・生活訓練

第三者評価結果

【A10】A-2-(4)-① 利用者の心身の状況に応じた機能訓練・生活訓練を行っている

a

<コメント>

・施設内リハビリ部の通所担当理学療法士または作業療法士が、個別にリハビリテーション実施計画を作成し、臥床時や車イス使用時の安全で快適な姿勢保持の方法、嚥下能力に応じた食事形態や食事介助の方法を提示したり、必要に応じて機能訓練を行っている。正しい姿勢保持を写真で示し、食事方法申し送り票および介助の仕方に特化した食事介助カードを作成し、トランスファー・ポジショニング・食事チェック表で確認できるようにしている。

・毎月2回リハビリ部と通所生活介護の合同活動として、楽しみながらのリハビリ「リハレク」を行っている。

A-2-(5) 健康管理・医療的な支援

【A11】A-2-(5)-① 利用者の健康状態の把握と体調変化時の迅速な対応等を適切に行っている

a

<コメント>

・健康診断・医療相談を年各1回、体重測定を月1回行い、毎利用日に家族から連絡票や送迎時に口頭で情報を収集し、到着時にバイタルサインを測定して健康状態を把握している。施設内医療機関の外来や訪問看護を利用している場合は、情報を共有している。入院した場合などは医療情報提供書の提出を依頼したり、通所再開前に電話で家族から聞き取りを行っている。

・利用者の体調が変化した場合は、施設内医療機関の通所生活介護担当医師が診察し、家族に電話で病状を説明して了解を得た上で治療を行ったり、相談に応じたり、迎えを依頼している。

【A12】A-2-(5)-② 医療的な支援が適切な手順と安全管理体制のもとに提供されている

a

<コメント>

・医療ケアが必要で他の事業所の利用が困難な利用者を積極的に受け入れている。現在の利用者のうち2人が人工呼吸器利用者、3人が気管カニューレ装着者、1人が胃瘻造設者で、7～8人が喀痰吸引を必要としている。

・主治医から医療ケアの指示をもらい、利用者ごとに医療行為別に指示内容を記載した指示簿を作成している。看護生活支援基準と自宅での支援方法を参考に、各利用者の支援に必要な14項目を看護・生活支援計画に定め、担当職員間で共有して医療ケアを実施している。

・生活支援職員が喀痰吸引研修を受講し、痰の吸引に携わっている。

A-2-(6) 社会参加、学習支援

【A13】A-2-(6)-① 利用者の希望と意向を尊重した社会参加や学習のための支援を行っている

a

<コメント>

・殆どの利用者が希望や意向を表出できない為、本人を知るための地図では好きな事、嫌いな事、苦手な事を把握している。取り組めそうな活動を個別支援計画に定め、少人数のグループまたは個別に、紙漉きによる葉書づくり、オープン粘土で作る贈答用のマグネット作り、テラスでのオクラ・パプリカ・スナップえんどう作り、近隣のコンビニへフルーツパフェを食べに行くなど外出の支援を行っている。

・毎日の日課で、朝夕の会での挨拶、事務所への出席人数報告、エプロン配りと回収、昼食メニューの発表、植物への水遣りなどの役割活動を支援している。

A-2-(7) 地域生活への移行と地域生活の支援

【A14】	A-2-(7)-① 利用者の希望と意向を尊重した地域生活への移行や地域生活のための支援を行っている	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none">・利用者の興味や関心に合わせた外食、買い物、散策などのグループ外出、隣接の障害者支援施設でボランティア音楽家団体が行う音楽交流サロンへの定例参加、紙芝居返却の為に図書館への同行、初詣、自治会の祭への参加など、地域での生活を支援している。・地域生活に必要なサービス情報の提供や、支援機関との連絡調整を行っている。・子供の為の地域交流多目的施設で、ボルダリング講習会、ピザ作り、重症心身障害児・者の理解や福祉機器・遊具の使用体験など夏休みの自由研究向け学習会を行い、施設の祭に地域の人々を招待している。		

A-2-(8) 家族等との連携・交流と家族支援

第三者評価結果

【A15】	A-2-(8)-① 利用者の家族等との連携・交流と家族支援を行っている	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none">・家族とは連絡票で、食事・水分の摂取量、排泄の状況、バイタルサイン測定結果、日中活動の内容と状況、伝達事項などを相互に情報提供し、送迎時に口頭で利用中の様子を伝えている。健康状態についての伝達は、看護師が直接行っている。・2か月に1回開催される自主組織の家族会に主任が参加して情報を共有し、2か月に1回発行する広報誌で、行事などの報告やお知らせ、職員の紹介などを行っている。・家族の負担軽減のため、通所の終了時間15:30～17:30までの実費負担による延長利用サービスを、1日5人を限度に行っている。		

A-3 発達支援

A-3-(1) 発達支援

【A16】	A-3-(1)-① 子どもの障害の状況や発達過程等に応じた発達支援を行っている	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none">・障害の程度が軽い利用者においては発達段階を評価しながら、支援するように努めてきた。・重度の利用者については障害の程度に合わせて、リハビリ担当者を交えながら支援することとしている。具体的には、障害の重い児童は感触遊びや色遊び等を中心に行ったり、知的発達のレベルが高い児童は三項関係を意識したボール遊び等や、粗大運動を取り入れて、心身状況に沿った対応に努めている。		

A-4 就労支援

A-4-(1) 就労支援

【A17】	A-4-(1)-① 利用者の働く力や可能性を尊重した就労支援を行っている	
<コメント> 【評価外】		
【A18】	A-4-(1)-② 利用者に応じて適切な仕事内容等となるように取組と配慮を行っている	
<コメント> 【評価外】		
		第三者評価結果
【A19】	A-4-(1)-③ 職場開拓と就職活動の支援、定着支援等の取組や工夫を行っている	
<コメント> 【評価外】		

A-5 サービス提供体制

A-5-(1) 安定的・継続的なサービス提供体制

【A20】	A-5-(1)-① 安定的で継続的なサービス提供体制を整え、取組を行っている	a
<コメント> ・個別支援計画を作成する際には、家族のニーズを計画に反映させることを大切にしている。さらに日頃より家族の意見・要望を積極的に傾聴する姿勢を持ち、職員チームで検討した上で迅速に対応・説明するよう取り組んでいる。 ・多職種が連携して一人ひとりの子どもの発達に合わせた評価と支援を実施している。具体的には、運動発達面の支援では子ども自身の運動機能面の評価だけでなく実際に生活する家庭の情報も把握して、適切な支援となるよう取り組んでいる。		